字のないはがき③　向田邦子　　二年（　）組　名前（　　）

めあて◆筆者の文章を父が書いた文章に書き換えて（リライトし）、父の心情を想像しよう。

【元の文】

妹が帰ってくる日、私と弟は家庭菜園のかぼちゃを全部収穫した。小さいのに手をつけるとしかる父も、この日は何も言わなかった。私と弟は、ひと抱えもある大物から手のひらにのるうらなりまで、二十数個のかぼちゃを一列に客間に並べた。これくらいしか妹を喜ばせる方法がなかったのだ。

夜遅く、出窓で見張っていた弟が、

「帰ってきたよ！」

と叫んだ。茶の間に座っていた父は、はだしで表へ飛び出した。防火用水桶の前で、やせた妹の肩を抱き、声をあげて泣いた。私は父が、大人の男が声をたてて泣くのを初めて見た。

リライトのモデルを教師が自作し、生徒にリライトの書き方や書きぶりの手本を示しています。

【リライトの例②】

下の娘が帰ってくる日、邦子と息子は家庭菜園のかぼちゃを全部収穫した。妹に食べさせたいと思ったからだろう。全部採ってしまった。普段なら小さいのに手をつけるとしかりとばす私も、今日だけは何も言うことはしなかった。娘と息子は手を精一杯広げて持てるくらいの大物から手のひらにのるうらなりまで、二十数個のかぼちゃを一列に客間に並べた。親元を離れ、ひもじい思いをし、さぞ心細かったであろう…。そんな妹を喜ばせたい、安心させたいと思い必死に考えた二人の気持ちが痛いほど伝わってきた。

～ここから先の続きを書いてみよう～